



2004 ▶ 2009

第1章 子どもをとりまく 人間関係

第1節

親子関係

1. 親との会話
2. 親とのかかわり
3. 親子関係の分析

第2節

友だち関係・異性関係

1. 友だちの数
2. 友だちとのかかわり

Benesse教育研究開発センター研究員 宮本 幸子

序章

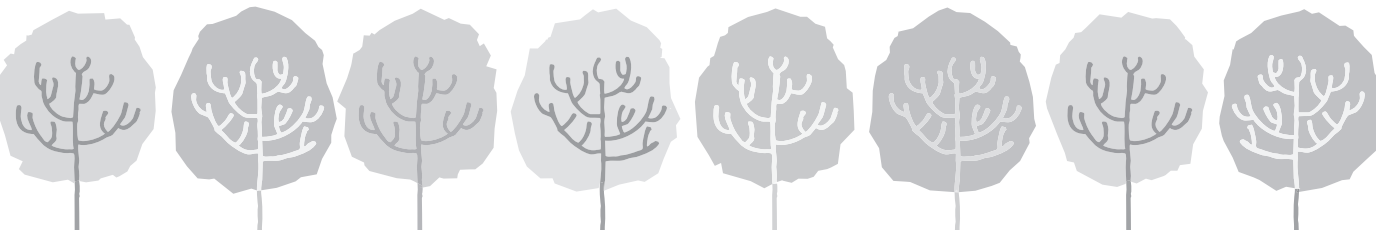
第1章

第2章

第3章

第4章

資料編



第1節 親子関係

1. 親との会話

5年前に比べて、父親との会話、母親との会話の頻度が高まった。とくに「友だちのことについて」を話題にする比率はいずれの学校段階でも高くなり、中学生では父親と7.3ポイント、母親と9.2ポイントと、増加幅が大きい。

◆小・中学生で親子の会話頻度が高まる

この5年間で親子関係はどのように変化したのだろうか。まずは親との会話からみてみよう。図1-1-1～図1-1-3は、「よく話をする」「ときどき話をする」と回答した合計比率を示したものである。

図1-1-1～図1-1-2をみると、小・中学生で会話の頻度が高まっていることがわかる。父親との会話・母親との会話ともに、2004年から減少した項目は1つもない。増加幅が大きい項目としては、「学校のできごとについて」「友だちのことについて」があげられる。とくに中学生が「友だちのことについて」会話をする比率は、2004年と比べると、父親との会話で7.3ポイント、母親との会話で9.2ポイント上昇している。また、小学生では「勉強や成績のことについて」の増加幅も大きく、母親との会話では58.7%→65.0%へと、6.3ポイント上昇している。

高校生（図1-1-3）でも、「友だちのことについて」は、父親との会話・母親との会話ともに増加している。しかし、それ以外の項目では2004年と同じ程度か、若干ではあるが減少している。

以上のように、2004年からの5年間で、小・中学生では親との会話頻度が高まり、とくに「学校のできごと」「友だちのこと」を話す子どもが多くなってきたことがわかる。

◆父親が活躍している話題は

「社会のできごとやニュースについて」

図1-1-1～図1-1-3からは5年間の変化だけでなく、父親との会話と母親との会話における、内容や頻度の違いも読み取れる。全体的には、父親よりも母親との会話のほうが頻度が高く、日ごろの親子の会話においては母親が中心となっていることがわかる。ただし、「社会のできごとやニュースについて」では4割前後（小学生37.4%、中学生39.0%、高校生43.1%）の子どもが父親と話をしており、学校段階が上がるにつれて母親との差は小さくなっている。とくに高校生（図1-1-3）においては、43.1%が「社会のできごとやニュースについて」父親と「話をする」と回答しており、父親との会話の内容としてはもっとも数値が高い。ニュースに関する話題では、父親が活躍している家庭も多いようだ。

図1-1-1 親との会話（小学生、経年比較）

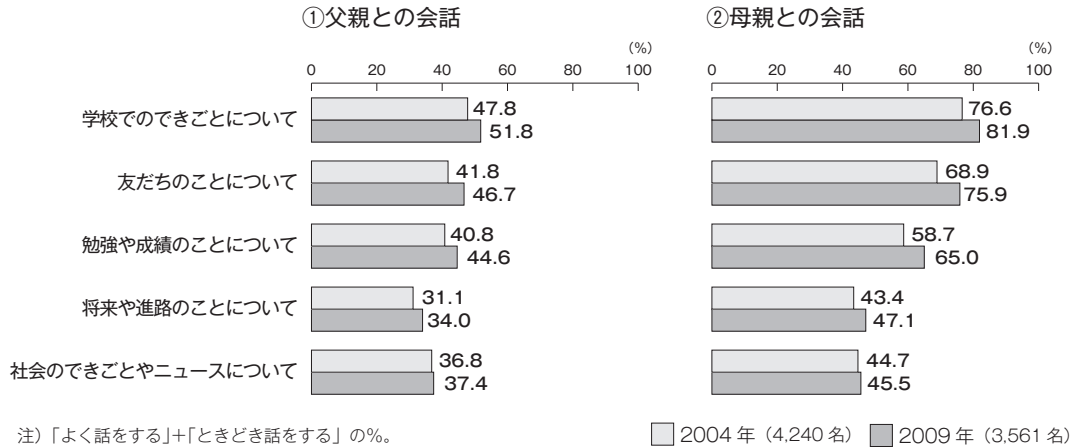


図1-1-2 親との会話（中学生、経年比較）

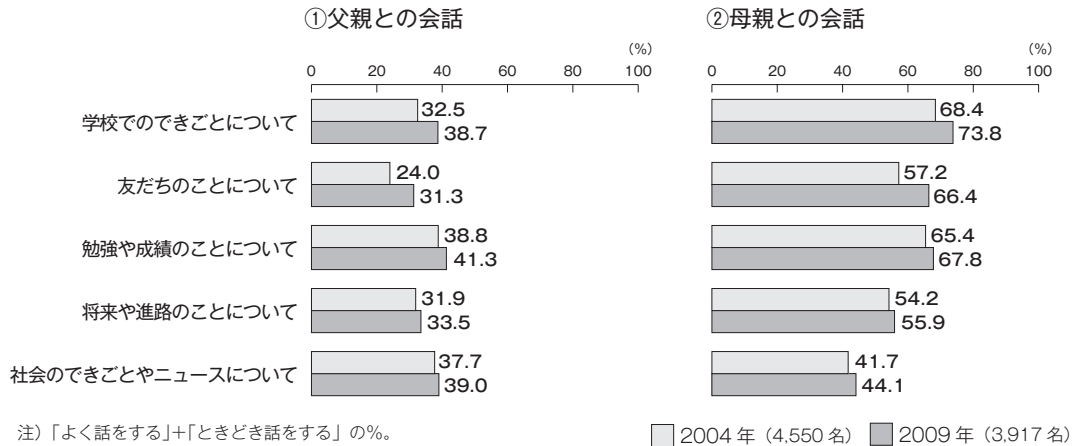
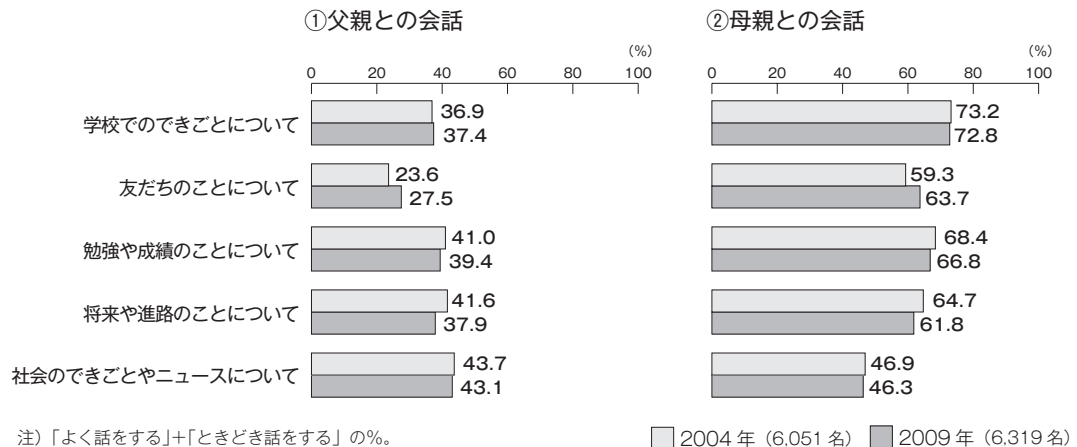


図1-1-3 親との会話（高校生、経年比較）



2. 親とのかかわり

5年前に比べて、「勉強を教えてくれる」「困ったときに相談にのってくれる」などの肯定的なかかわりは増加した。一方で、「何でもすぐ口出しをする」といった干渉や強制などの否定的なかかわりは減少した。親子関係がより密接になっている。

◆「勉強を教えてくれる」「困ったときに相談にのってくれる」などの肯定的なかかわりが増加

つづいては、親とのかかわりを取り上げたい。まずは、「勉強を教えてくれる」から「あなたのことを大人として扱ってくれる」までの、肯定的なかかわりを示す5項目からみていこう。

小学生（図1-1-4）では、親が「勉強を教えてくれる」「いいことをしたときにほめてくれる」「悪いことをしたときにしかってくれる」とした子どもが、2004年時点ですでに7～8割程度いた。2009年ではさらに増加し、「悪いことをしたときにしかってくれる」は9割近くに達している。また、「困ったときに相談にのってくれる」「あなたのことを大人として扱ってくれる」は2004年よりも5ポイント以上増加し、それぞれ70.5%、21.7%となっている。

中学生（図1-1-5）では、さらに顕著な変化がみられる。「勉強を教えてくれる」から「あなたのことを大人として扱ってくれる」までの5項目すべてで、2004年から増加している。なかでも、「いいことをしたときにほめてくれる」「困ったときに相談にのってくれる」は10ポイント近く増加し、それぞれ63.0%、48.1%となった。

高校生（図1-1-6）は小・中学生に比べて増加幅は小さいものの、「勉強を教えてくれる」「困ったときに相談にのってくれる」は2004年よりも5ポイント前後多くなっている。

このように親の肯定的なかかわりは、この5年間で増加していることがわかる。

◆「何でもすぐ口出しをする」などの否定的なかかわりは減少

それでは、「いつも『勉強しなさい』と言う」から「お父さんとお母さんの意見が違って困る」までの、否定的なかかわりを示す5項目はどうだろうか。

小学生（図1-1-4）では、2004年から増加した項目はなく、「何でもすぐ口出しをする」「約束したことを守ってくれない」では5ポイント以上減少している。

中学生（図1-1-5）では、2004年からあまり大きな変化はみられない。高校生（図1-1-6）では、2004年から増加した項目はなく、「何でもすぐ口出しをする」「考えをおしつける」などが若干減少している。肯定的なかかわりが増加したのに対して、否定的なかかわりは減少傾向にある。

以上のように、2004年からの5年間で、親とのかかわりに対する子どもの評価は全体的によくなっている。前項でみた親との会話の頻度が高まった傾向と合わせて、親子関係はより密接に、良好な関係になっていることがわかる。

ただし、良好な関係のなかでも、小・中学生では、「悪いことをしたときにしかってくれる」は増加していた。親は「しかってくれる」けれども、「口出し」はしない存在になってきている。子どもを尊重しながら、しつけや教育に熱心に取り組む保護者が多くなっているのかもしれない。

図1-1-4 親とのかかわり（小学生、経年比較）

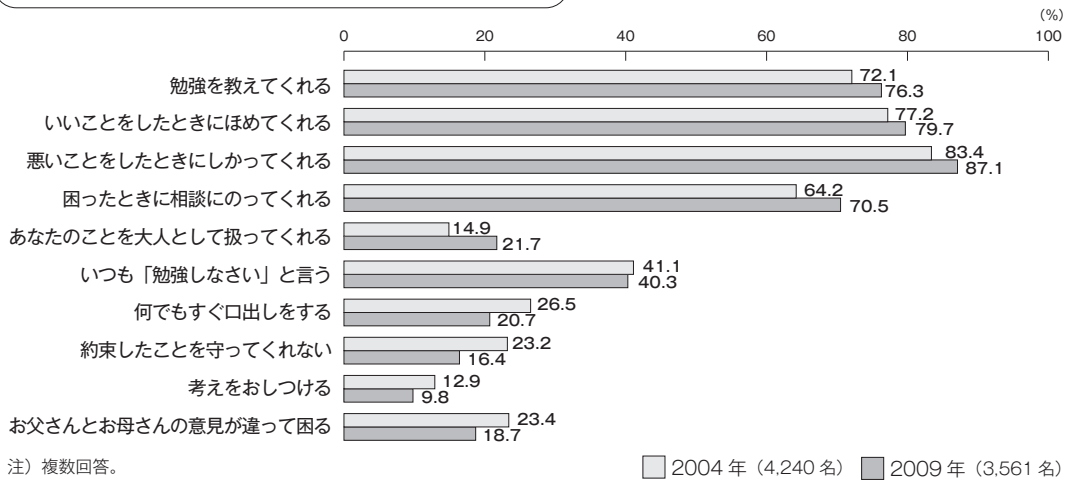


図1-1-5 親とのかかわり（中学生、経年比較）

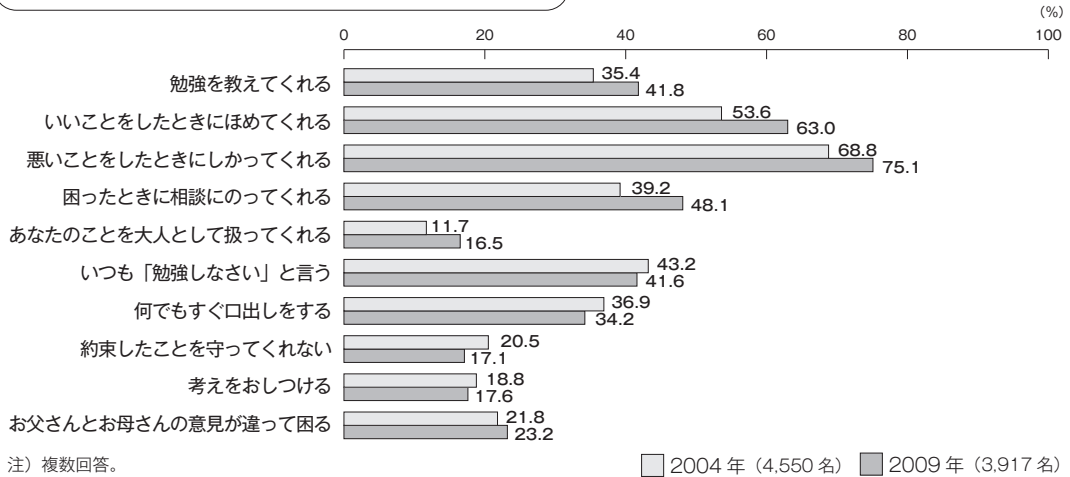
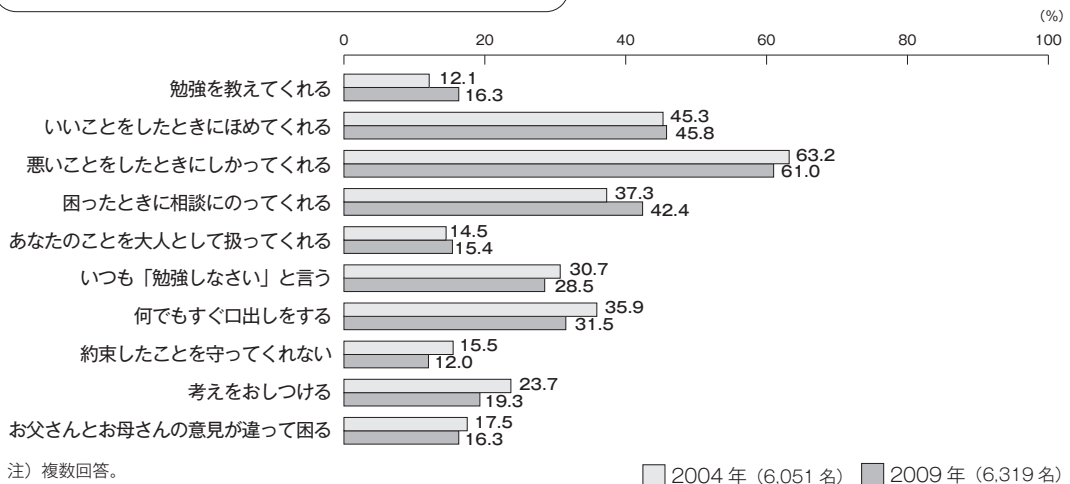


図1-1-6 親とのかかわり（高校生、経年比較）



3. 親子関係の分析

親子関係の変化は、子どもの学年で見ると、小6生～中2生で顕著である。また、保護者（母親）の属性で見ると、とくに非大卒の母親のかかわりが5年前よりも密接になっている。子どものことにより気をつかう関係が幅広い層に浸透しているようだ。

◆親子関係がより密接になった学年は

小6生～中2生

ここまでで、親子関係がこの5年間でより密接になってきたことを指摘した。それでは、どのような子どもたち、どのような家庭での親子関係が、とくに変化したのだろうか。まずは変化の大きい子どもの学年を探りたい。図1-1-7は「母親との会話」のなかから、図1-1-8は「親とのかかわり」のなかから、経年での変化が顕著であった項目にしぼって、さらに学年別に図示したものである。

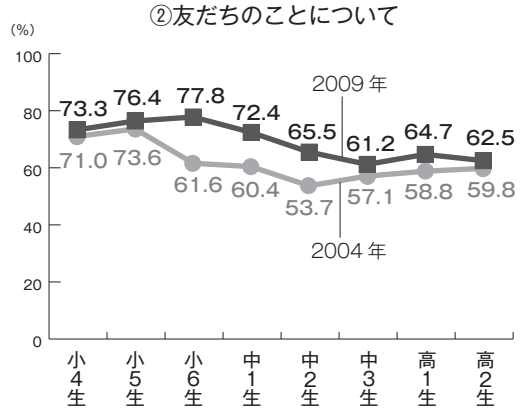
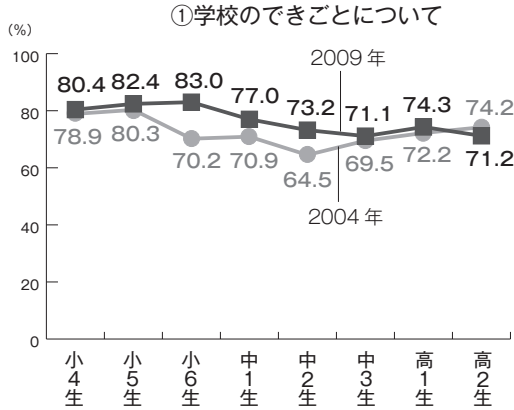
まず図1-1-7で、母親と「学校のできごとについて」「友だちのことについて」話す比率をみてみよう。2004年をみると、どちらも小5生から小6生にかけて10ポイント以上数値が下がっていて、小6生が親との会話が減る学年であったことがわかる。しかし2009年では、小6生の数値が全学年のなかでもっとも高くなっ

ている。小6生だけでなく、中1生・中2生でも、母親と話す比率が2004年より高くなっている。

「親とのかかわり」（図1-1-8）でも、同様の傾向がみられる。項目ごとに若干違いはあるものの、とくに小6生～中2生で2004年からの増加幅が大きい点は共通している。

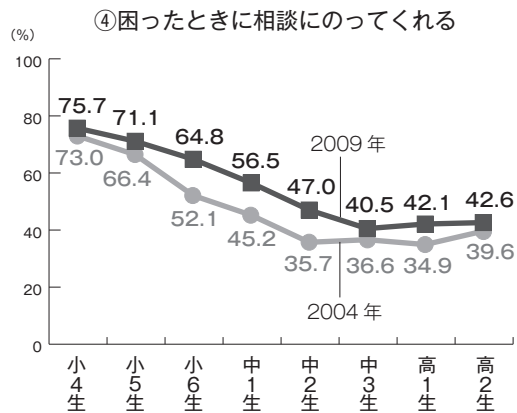
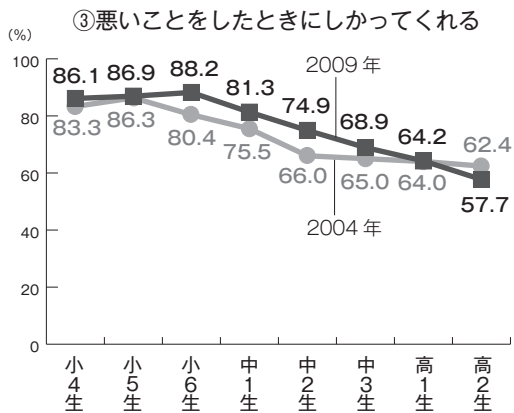
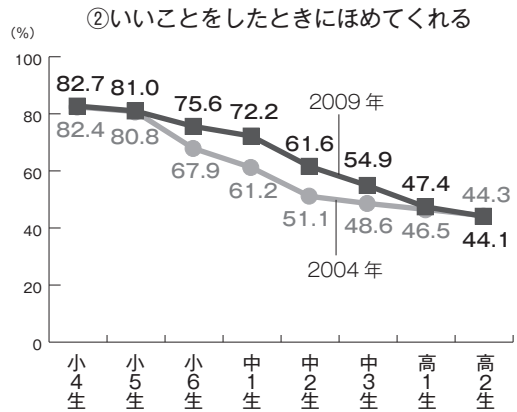
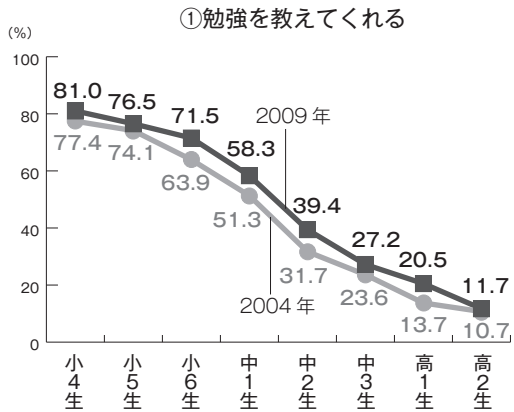
以上のように、この5年間で親子関係がより密接になってきた学年は小6生～中2生であることがわかる。この時期は、青年期、思春期の入り口にあたる。密接な親子関係は、子どもに寄り添いながら心身の成長をサポートできるよさがある。しかしこの時期は、親をはじめとした大人との衝突を経て成長するとされてきた段階でもある。親子関係の変化が、こうした発達のある方の変質をもたらしている可能性も考えられる。現在の親子関係における子どもたちの自立とはどのようなものなのか、今後検討すべき重要な課題といえるだろう。

図1-1-7 母親との会話（学年別、経年比較）



注) 「よく話をする」+「ときどき話をする」の%。

図1-1-8 親とのかかわり（学年別、経年比較）



注) 複数回答。

第1章 子どもをとりまく人間関係

◆非大卒の母親のかかわりがより密接に

つづいては、どのような保護者で親子関係が変化したのか、検証したい。表1-1-1～表1-1-2は、親子関係の変化が大きかった小・中学生について、さらに母親の属性別にみたものである。

まず学歴別にみると、全体的に非大卒の母親のほうが変化が大きいことがわかる。母親との会話では、小・中学生ともに、非大卒の母親で5ポイント以上増加した項目が多い。なかでも「友だちのことについて」は、小学生で75.4%、中学生で66.1%に達し、大卒の母親との差が非常に小さくなっている。

「母親との会話」に比べると、「親とのかかわり」のほうでは、大卒の母親でも増加している項目が目立つ。非大卒の母親のほうで増加幅が大きい項目が多いものの、中学生の「勉強を教えてくれる」では大卒の母親のほうで増加幅が大きい（大卒：2004年45.7%→2009年52.9%、7.2ポイント増、非大卒：2004年30.9%→2009年36.5%、5.6ポイント増）。この項目はもともと大卒の母親のほうで比率が高かったが、2009年にはさらに差が広がっている。

このように、かかわり方にはまだ質的な差が残っていることが推察されるものの、非大卒の母親においても親子のかかわりがより密接になってきたようである。密接な親子関係、子どものことにより気をつかう親子関係が幅広い層に浸透してきているのが、この5年間の変化として指摘できるだろう。

◆母親が常勤の場合でも親子のかかわりが増えている

さらに同じ表1-1-1～表1-1-2で、母親の就業形態別に親子関係をみてみたい。ここではおおまかな傾向をとらえるために、「常勤」「専業主婦」の数値のみを示し、「パートタイム」の数値は省略している。

まずは小学生の数値をみてみよう。5ポイント以上増加しているのは、母親が常勤の場合、「勉強や成績のことについて」の会話、「友だちのことについて」の会話、「あなたのことを大人として扱ってくれる」の3項目である。母親が専業主婦の場合、「友だちのことについて」の会話、「あなたのことを大人として扱ってくれる」の2項目である。母親の就業形態に関係なく、2004年より親子のかかわりが増加している傾向がみられる。

つづいて中学生の数値をみると、5ポイント以上増加しているのは、母親が常勤の場合、「友だちのことについて」の会話、「いいことをしたときにほめてくれる」「困ったときに相談にのってくれる」の3項目である。母親が専業主婦の場合、「友だちのことについて」の会話、「勉強を教えてくれる」「いいことをしたときにほめてくれる」「困ったときに相談にのってくれる」の4項目である。母親の就業形態にかかわらず親子のかかわりが増加している点は小学生と同じである。ただし、「友だちのことについて」の会話や「勉強を教えてくれる」では専業主婦の場合の増加幅が大きく、常勤との差が2004年よりさらに大きくなっている。

このように、母親の就業形態によって依然としてかかわり方の差はみられるものの、全体として2004年より親子のかかわりが増えていることが確認された。

表1-1-1 親との関係（小学生、母親の学歴別・母親の就業形態別、経年比較）

(%)

		母親の学歴別				母親の就業形態別			
		大卒		非大卒		常勤		専業主婦	
		2004年 (998名)	2009年 (959名)	2004年 (3,242名)	2009年 (2,602名)	2004年 (1,824名)	2009年 (1,560名)	2004年 (873名)	2009年 (864名)
母親との会話	学校でのできごとについて	84.3	86.5	74.3 <	80.3	78.1	82.3	83.0	86.7
	勉強や成績のことについて	67.4	70.8	56.1 <	62.9	59.2 <	64.2	66.1	69.0
	将来や進路のことについて	53.6	53.4	40.3	44.7	44.3	47.8	45.8	48.8
	友だちのことについて	77.3	77.2	66.2 <	75.4	69.5 <	75.4	73.6 <	78.8
	社会のできごとやニュースについて	56.6	53.9	41.1	42.5	45.3	44.5	48.2	50.4
親とのかかわり	勉強を教えてくれる	81.3	82.0	69.2 <	74.2	72.8	75.3	77.2	78.5
	いいことをしたときにほめてくれる	84.6	84.5	75.0	78.0	79.2	80.7	79.3	80.7
	悪いことをしたときにしかってくれる	88.3	89.7	81.9	86.2	85.3	88.4	86.9	88.3
	困ったときに相談にのってくれる	71.1	75.2	62.1 <	68.7	64.7	69.1	67.6	72.2
	あなたのことを大人として扱ってくれる	19.5 <	25.0	13.4 <	20.5	15.3 <	22.2	15.1 <	23.5

注1) 「母親との会話」は「よく話をする」+「ときどき話をする」の%。「親とのかかわり」は複数回答。

注2) <>は5ポイント以上差があることを示す。

表1-1-2 親との関係（中学生、母親の学歴別・母親の就業形態別、経年比較）

(%)

		母親の学歴別				母親の就業形態別			
		大卒		非大卒		常勤		専業主婦	
		2004年 (1,364名)	2009年 (1,265名)	2004年 (3,186名)	2009年 (2,652名)	2004年 (2,065名)	2009年 (1,692名)	2004年 (670名)	2009年 (750名)
母親との会話	学校でのできごとについて	75.8	77.0	65.2 <	72.2	71.8	73.4	77.3	80.2
	勉強や成績のことについて	75.9	73.2	61.0	65.3	69.0	67.2	71.5	71.1
	将来や進路のことについて	61.6	60.9	51.0	53.6	57.7	57.0	59.4	59.2
	友だちのことについて	63.9	67.2	54.2 <<	66.1	60.9 <	65.9	61.8 <<	72.7
	社会のできごとやニュースについて	48.7	48.1	38.7	42.1	44.4	43.4	45.4	46.9
親とのかかわり	勉強を教えてくれる	45.7 <	52.9	30.9 <	36.5	35.9	39.1	41.5 <	48.8
	いいことをしたときにほめてくれる	59.2 <	66.4	51.2 <<	61.4	55.5 <	62.8	58.7 <	67.3
	悪いことをしたときにしかってくれる	73.7	77.1	66.8 <	74.2	71.6	75.4	72.8	76.3
	困ったときに相談にのってくれる	43.6 <	49.5	37.3 <<	47.4	39.6 <	47.5	45.5 <	53.5
	あなたのことを大人として扱ってくれる	13.6	17.6	10.9 <	16.0	12.7	16.8	12.7	16.4

注1) 「母親との会話」は「よく話をする」+「ときどき話をする」の%。「親とのかかわり」は複数回答。

注2) <>は5ポイント以上、<<>は10ポイント以上差があることを示す。